

令和元年度 6月号 (No.3)

世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人



植竹中だより

さいたま市立植竹中学校 学校教育目標：「ひと」とともに生きる生徒の育成

『ひと』とともに生きる生徒の育成

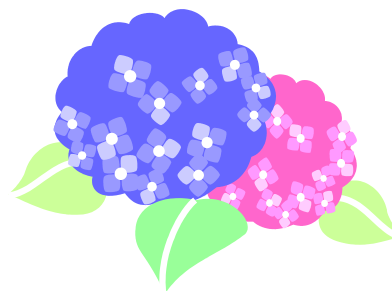
～だれに見られなくても～

校長 福島 博子

テニスコート脇の紫陽花が色を付け始めました。50年ぶりの豪雨であったり、5月というのに真夏のような高温の日があったりと、天候不順が続きますが、生徒たちの澆刺とした声が教室や校庭から響きます。保護者や地域の皆様には、学校公開日や PTA 総会をはじめとした各種の会議等でも大変お世話になっていることに心から感謝申し上げます。本校でも先日「生徒総会」が開かれましたが、生徒会長をはじめとした生徒会役員はもとより、生活委員会、体育委員会といった各専門委員会の委員長からのあいさつ・今年度の方針では、「67年の伝統を踏まえつつ、さらに素晴らしい学校を自分たちの力で創っていく」という決意が髓所に感じられ、大変うれしくそして頼もしく感じました。全校生徒で心を合わせて、令和元年という記念の年にふさわしい、いつまでも心に残る良い1年にしていきたいと思います。

さて、先日、下校の際、校庭のごみをさっと拾っている生徒の姿を偶然目にしました。これはできそうではなかなかできることではありません。また、別の日には、雨で朝練習ができなかったソフト部の生徒が、生徒昇降口やその付近の廊下を黙々と掃除してくれている姿に出会いました。「本当にありがとう」と声をかけましたが、さりげない気遣いのその背中にふと思い出した詩がありました。

花は だれかのために咲くのではない
だれに見られなくても いいではないか
花たちは みな 自分のためにひらく
(中略)
たとえ 雨に降られても ひるまない
咲くべきときに みな きちんと咲く
そのためにたくわえる 十分な力
——花たちは 自分の時刻を秘めている



「だれに見られなくても」宮澤章二 ごま書房新書より

私も自分の中に、「自分の時刻」を秘められているだろうか。

SNS 等での発信をはじめとして、何かと他者への「アピール」が強い時代ですが、皆さんには「だれに見られなくてもひるまず咲く947の花」であってほしいと願います。

今週末から、さいたま市学校総合体育大会が始まります。いち早く大会のあった陸上部は既に、複数の種目で県大会出場を決めています。運動部の3年生にとっては最後の大会となるこの大会です。まさに今、「花を咲かせる時刻」です。今まで秘めてきた力を十分発揮させてください。

私も可能な限りすべての部の応援に駆け付けたいと思っています。